

C up ワールド

2002 年 5 月 6 月合併号

2002 年 4 月～5 月の山行記録



自主山行

谷川岳・芝倉沢雪上訓練
4月7日

参加者

金沢 和則 L 矢田 実 松本 善行 坂口 理子
計 4 名

行程

講習会との同日自主企画。
土合駅から芝倉沢に入り雪上訓練、前半が自主企画、
後半に講習会の CU という変則企画。

山行のポイントおよび感想

「あの連中は何やってるんだ。」
講習会参加者からするとそんな言葉が出てしまうかもしれない講習会との同日自主企画でしたが、雪上でのロープワークをより自分のものにするために、本などに載っているものを自分たちの山行の中ではどう使えるのか？また必要か不要か？などを知りたくて企画しました。といっても特に難しいことをするのではなく講習でも行っているスタンディング・アクセス・ビレーの細かいところのチェックや、講習ではやらないブーツ・アクセス・ビレーなどしっかりした支点がとれない雪上のビレーについて具体的場面を考えながら話しながらのビレーの研究！？といった内容でした。

また何かの機会に似たようなことをするにしても今回のように多くのことを盛り込まず、ポイントを絞った方が効果的でしょうし、何よりもどんな山に行きたいかなどが自分にイメージできた時にこんな自主研修をするのがいちばんいいのではないかと思います。

報告者 金沢 和則

自主山行

蓮華温泉より朝日岳への往復山スキーツアー
4月13日～15日

参加者

岩本一郎(L)・坂口理子(SL)・宮下裕史(AD)・
金沢和則(AD) 計4名

行程

4月13日 柵池スキー場(8:50) → 天狗原(11:00)
→ 蓮華温泉(13:30)
4月14日 蓮華温泉(6:05) → 瀬戸川(7:05)
→ 朝日岳取付(10:00)
→ 2,300m付近頂上直下(12:00～13:00)
→ ひょうたん池(13:45)
→ 瀬戸川(14:20) → 蓮華温泉(16:30)
4月15日 蓮華温泉(7:30) → 角小屋峠(10:00)
→ 木地屋集落(12:00)

講習のポイント

(蓮華温泉から朝日岳往復)
蓮華温泉から瀬戸川へ降りるまでが傾斜がややきつい。今年は雪が少なかったため、瀬戸川はスノーブリッジではなく橋が出ていた。頂上直下は緩やかなコル状になっているため、風が強い場合、雪面が叩かれて硬くなっている場合があるので注意。コースタイムで10時間以上のロングコースなので、まさに体力勝負。

感想

昨年に引き続き、今年も朝日岳にチャレンジしましたが、強風のため頂上直下で断念しました。とても残念ですが、まる一日温泉三昧の停滞だった去年(笑)に比べれば、格段に頂上に近づきました。スキーならではの機動力をめいっぱい使ったロングル

C-up ワールド 2002年5月6日合併号

ートを満喫、頂上直下からの大斜面の滑降は(たとえボーゲンでも)ダイナミックに決まる(気がする)!!本当にすばらしい山行でした。正確無比なリーダー岩本さん、鉄人パワーの宮下さん、驚異の小宇宙の金沢さん、本当にお世話になりました。かくいう私は、兵馬平でスイッチが切れへろへろになって蓮華温泉にたどり着きました。来年もぜひチャレンジしたいです。

報告者: 坂口理子

△△△△△△△△△△△△△△△△

講習山行

春山講習合宿 スキー隊/尾瀬・至仏山と燧岳
5月2日~5日

参加者

渡部吉実、片岡和則(本科生)
工藤寿人(講師) 計3名
黒田記代(5/3のみ。スノーシューで至仏山)

天候

5/2: 快晴
5/3: 快晴
5/4: くもりのち雨
5/5: 雨のちはれ

行程

5/2: 鳩待峠より入山。アヤメ平までシール登高。滑走練習。鳩待山荘泊。
5/3: 至仏山まで山スキー、スノーシューで登山の鼻へ滑走。
5/4: 山の鼻より見晴十字路口小屋坂経由で、長蔵小屋まで歩く。
5/5: 長蔵小屋より長英新道にて燧ヶ岳へ登り、尾瀬御池へ下山。会津高原駅より東京へ帰る。

講習のポイント

- ・シールを着けた登高。
- ・樹林帯の中での滑走。
- ・読図、ルートファインディング(夏道が雪に覆われていてルートが判りにくい)。

感想

2日は沼田よりバスに乗り、11:30鳩待山荘着。12時過ぎに、アヤメ平に向け登高練習を行なう。山荘の裏手は少し斜度があるものの、後はなかなか標高の上がないだらだら登りを行う。ブナ・ダケカンバ・ツガの樹林帯散歩という感じでとても気分が良い。帰りは工藤さん片岡さんが先行して下り、少し見失ったら方向が判らなくなった。「工藤さん」と呼び所在を確認し難を逃れた。夏道のようにすぐにそれと判るルートでないことと、樹林帯の中の風景がどれも同じに見えて、スキー場のように見通しが利かないことからルートファインディングが難しかった。大きな変化がない雪山では細かく正確な読図技術が要求されるようだ。勉強不足を痛感させられた。

3日。歩き隊の黒田さんが7時過ぎに到着し、7:30ころ至仏山へと向かう。このルートもだらだら登りで本来楽はずだが、軽量化を怠った20kg近いザックが重い。シールで登るのも神楽峰への短い区間しがなく、実質初心者の中には苦痛だった。それでも10:30頃頂上を踏む。猫又川が大きく蛇行して流れているのが良く見え燧ヶ岳もあまり雪が着いていない。至仏山より派生した尾根は岩稜帯とハイマツがむき出しになっていて、工藤さんが「こんな年は初めて」と嘆いていた。頂上直下より下り、左の斜面へトラバースし、沢沿いに滑る。大きな斜面なのだが、降雨で雪面にあちらこちら溝が掘られていて滑りにくい、いわば賞味期限切れの雪だった。13時に山の鼻着。山スキーもスノーシューも大差なく上り下りできました。14時に本日入山した歩き隊と合流したものの明日のルート確認のためすぐ小屋から出て下見に行かれました。我々は一番風呂に入り、小屋前で至福の時を過ごしていると上家さん到着。その後歩き隊も戻ってきた。

4日。歩き隊は雨降るなか5時過ぎに出発。我々は朝食を済ませ長蔵小屋へ向け出発。尾瀬原の散策となる。普段は木道しか歩けないのに、山スキーだと湿原の上を自由自在に歩けて楽しい。龍宮十字路口小屋坂の一部で夏道が出ていてスキーを担いだところもあるが、ほぼ山スキーで歩いた。工藤さんは力まずにスイスイ進んでいるのに、私はバタバタ音で力もロスする歩き方でこの日はバタバタでした。スキーは移動する道具であり、下りの時間を短縮で

C-up ワールド 2002年5月6日合併号

きるすばらしい道具なのだ と納得。宿に入り 悲しい雨音をBGMにして夕食まで雑談。談話室に何気なく敷いてあったムシロが亡き祖母を思い出させた。翌日起床すると雨で気が重い。しかし8時に出発する頃には小降りとなる。長英新道よりダラダラと登る。2000m地点あたり、スキーのシールが両方も外れてしまった。工藤さんにガムテープで応急処置して頂き山頂を目指す。他チームの山スキー隊は板をザックにつけ、ツボ足で登っている。我々は岩が露出していた頂上直下以外はシールで上がった。その方が疲れないように思う。12時に頂上で360度の展望を楽しみ御池へと下る。初め斜度がキツく、下から上がってくる人がいて怖かった。「過去に山塾でヘリコプターを使用したのは2回共山スキーの時」との言葉が脳裏をかすめる。樹林帯で転倒し樹木にスキー板が引っ掛かり宙吊りになってしまう。工藤さんに助けて頂き脱出できました。御池着は14時前。14:30のバスに乗りホッとした。スキーのシールがはがれてしまった件ですが、板に合わせてカットした面をハンダゴテ等で焼かなかつたので吸水が早くなり、のりがポロポロになってしまったようです。(メーカー談)鳥海山がまた楽しみです。

報告者: 渡部吉実



講習山行

春山講習合宿 歩き隊 / 尾瀬・景鶴山と燧岳
5月3日～6日

参加者

遠藤 南谷 黒田 新井 新井 吉国 矢沢 茨木
長田 (本科生)

椎名 沢口 上家 (CU)

松浦寿治(講師) 計13名

天候

晴～雨～曇り

行程

一日目: 鳩待峠→山の鼻小屋

二日目: 山の鼻小屋→東電小屋→景鶴山
→山の鼻小屋

三日目: 山の鼻小屋→尾瀬ヶ原→尾瀬沼→長蔵小屋

四日目: 長蔵小屋→燧岳→長蔵小屋→大清水

講習のポイントおよび感想

夏がく～ればおもいだす・・・尾瀬はあまりにも有名ですが、私にとっては初めての尾瀬。連休だし超混んでるんだらうなあ、と覚悟して行ったら意外にも小屋は結構余裕があり、この時期ここまで入るのは限られているんだ、と妙に感心をしてしまった。スノーシューを使いましたが、雪が今年は随分少ないようで、本領発揮とはいかなかったようです。

2日目。景鶴山目指して、10時間コース。夏には登れない山に登るのはなんだか得した気分でした。天候もなんとかもったのですが、景鶴山頂上から道を探すのには苦勞しました。結局時間が厳しいということで、景鶴を越えたところより、尾根に沿って降りてきたのですが、最後のところはやぶごぎに。やっと広々したところに出たと思ったら、雪の上に大きなウンコ!熊のものではないか。

3日目。ひたすら尾瀬を横断。ところどころ、水芭蕉・座禅草が咲いていました。長蔵小屋は雰囲気抜群!ともかく、尾瀬の小屋小屋にはお風呂があって汗を流せるのはありがたいです。(環境面で言ったらよくないのだろうけど)

4日目。朝4:30出発。燧ヶ岳往復。天気は最高。富士山まで見えました。青空と、雪のコントラスト。のんびりと山頂で過ごすこともできました。この4日間尾瀬を満喫しました。今年は山の魅力にとりつかれそうです。四季折々のいろいろな山に登ってみたいです。

報告者: 南谷やすえ



講習山行

しっかり歩く / 奥多摩・戸倉三山(臼杵山・市道山・刈寄山)縦走
5月11日

参加者

中島和美(本科生)

山下紀子、久津見美和子、宮崎和弘、宮崎恭子、

C-up ワールド 2002 年 5 月 6 月 合併号

伊藤百合子(遠足)

松浦寿治(講師)

計 7 名

しかし、日もすっかり落ち、刈寄山から五日市駅までの下山の歩程は長かった。

天 候

曇天

行 程

(日帰)・歩程8 時間30 分)

五日市駅(外) → 荷田子(二丁、登山口) →

(グミ尾根) → ▲白杵山 → ▲市道山(仔子)

⇒⇒ 烏屋切場(トッキバ、いつのまにか通過) →

▲刈寄山 ⇒⇒ ⇒⇒⇒ 五日市駅

コースの核心

アプローチや標高のわりには工程が長く、しかも奥深い縦走となるので、早立ちが望ましい。

他の奥多摩山域よりもやや地形が複雑で標識が少ない。特に市道山から刈寄山間はルートファインディングが要求される箇所があるので、分岐に注意する。一方他の山域にはない手ごたえがある静かな山歩きが期待できる。

感 想

喧騒の中を歩くことが多い昨今の中高年の登山ゲームの中で、静かな山歩きが期待できる戸倉三山の縦走は私にとって長年の宿題であった。

「しっかり歩く」講習と参加要領にあったことから、勿論体力的な不安はあるものの夏山プレ山行として大いに期待して参加した。

縦走中に出会った登山者は僅か2 組、それも3 人1 人はソロと、期待どおり?(実は少々寂しかったが)奥多摩らしい落ち着いた雰囲気の中での尾根歩きの感触の良さは十分満足し得るものとなった。

「山歩きは急がず、一步一步確実に歩く」これは荷田子峠から白杵山への取り付きでの松浦講師の言である。この一言で、(グミ御前で安全を祈願して)山頂までの高低差500mの急登がクリアできたことを実感した。

Slowly but Steady ゆっくりと、しかししっかり歩く。

私自身、ともすれば忘れがちな山歩きの基本を本山行で教わったように思う。感謝

また「グミ御前」(謂れが知りたいが、不明)と、立木(リュウボク)の所有権の明認方法として、木肌を削いで所有者を明示する方法が今も残っていることに興味を引かれた。感謝

報告者: 中島和美

△△△△△△△△△△△△△△

寄稿

若井展子さんを偲ぶ

16 期生の若井展子さんが 5 月 17 日、自宅で逝去されたとの知らせが 16 期のメールや電話に流れたのは 22 日のことでした。

若井さんは遠足倶楽部から本科生になった人で、健脚であるだけでなく、16 期のなかで、良識あるお姉

さま役でありました。

軽快なフットワークと、巧みなロープ捌き、合理的なパッキング術のみならず、合宿や縦走などでの人間関係の距離感の絶妙さは大いに学ぶところでした。絵心もあり、テントの中での一幕のスケッチを年賀状にされるなど、趣味の広い方でした。

そして、私個人にとっては、若井さんは山を続けることができた恩人でした。

1 年余り膝の故障で“休学”した後、何とか“復学”しようというときに、同期の高橋さんと染谷さんも誘って、日和田に連れ出してくださいました。

若井さんを中心に同期であり先輩となった 3 人にマンツーマンならぬ 3 対 1 の手取り足取りの指導、叱咤激励を受けてへとへとになるまで練習した 1 日があれば、私の山への復帰は叶わなかった筈です。アルバムをめくると、色白美人の若井さんの激励が、今も聞こえるような気がします。

若井さんは、乳がんの肝臓への転移によって余命 3 ヶ月と宣告された後も、ノマドのメンバーを山へ誘われるなど、本当に強靱な精神の持ち主でした。

自宅での闘病生活を選択され、2 度の春を自宅で過ごされました。

余命が限られることを知ってからも、冷静に、前向きに過ごされたからこそ、主治医の見込みをはるかに越える貴重な時間を手に入れられたものと思われまます。

意識が薄らいでからも「山へ行きたい」「沢へ行きたい」とつぶやいていらしたそうです。

そして、先日、ご主人とご子息に看取られて静かに

最期を迎えられました。

若井さんの前向きさ強さにはただただ敬服するばかりです。

40代半ばという早過ぎる終焉を迎えた若井さん、心からの感謝と敬意を込めて、ご冥福をお祈りいたします。

寄稿者 上家 和子

△△△△△△△△△△△△△△△△

編集局から

前号は印刷の不幸で4ページ目が欠落、重複してしまいました。再発行分との差し替えのうえ、ご覧ください。

今回はトレーニングメニューが多かったためか、年度かわりのためか、自主研修報告を含めても小型号となりました。トレーニングメニューについても報告をいただくと、来期以降にも参考になるでしょう。皆様のご協力を切にお願いします。

ところで、新編集となってわずか4号発行したところではありますが、試行錯誤のまま、編集局を交代することとなりました。短い期間でしたが拙い編集にお付き合いくださいましてありがとうございます。心より御礼申し上げます。新編集長は現役本科生の末木俊之さんです。一層活発にご報告ご愛読いただきますようお願い申し上げます。

ご報告は無名山塾ホームページの山行報告入力フォームで送信されると自動的に編集局に登録されますのでご活用ください。新編集長へのメール送信についても検討されています。もちろんFAXその他で山塾サポートへお送りいただいても結構です。

みなさまのご協力をお願いします。

アドレス

C-UPワールド

<http://member.nifty.ne.jp/c-up/>

無名山塾 <http://www.sanjc.com>

山塾サポート RXL13656@nifty.ne.jp

Phone & Fax 03-3600-3570

iモード

<http://member.nifty.ne.jp/c-up/i.htm>